

1. ジェフ・バーンズ牧師「証し」

おかしなことですが、私はクリスチャンになる前からバプテスト派信者です。と言いますのは、私はアラバマ州バーミングハムのバプテスト病院で生まれたからです。両親はバプテスト教会のリーダーであり、私はクリスチャンホームで育ちました。それは私にとって大変大きなことでした。両親は毎日クリスチャンとして誠実に歩み、父は教会のリーダーであり執事として、母もまたリーダーで児童伝道、青年会、ナースリーに重荷を持っていました。このような環境下で、私はどのように言動すべきかよく知っていましたが、生ける神との関係はありませんでした。12歳の時に、私は教会でバプテストを受けましたが回心の経験はありませんでした。19歳になり、聖霊は私の罪を指摘してくださり、イエス・キリストに罪の赦しを願い求めました。そしてイエスが私の主、私の救い主となってくださいました。それはアラバマ州チェルシアにある私の母教会マウント・シグナル教会のイースター・リバイバル集会のことでした。

・私の召命

イエス・キリストを受け入れて、私は神にお仕えする召命の旅路が始まりました。神は、私がしもべとなり、多くのミニストリーに携わるように、そして伝道会で説教し教えるために必要な霊的賜物を与えてくださり、祝福してくださいました。神はそのために私を教会のスタッフとし、他のミニストリーにも参加するよう導いてくださいました。

私が15歳の時でしたが、両親は日本からの夏季短期学生を迎えるホストファミリーとなりました。その翌年の夏も同じく、他の日本人学生を迎えるホストとなりました。その時の経験が、私のその後の日本宣教につながるようになったと思います。それから、いろいろな奉仕を通して神にお仕えしてきましたが、10代の時に与えられた日本宣教の思いは、常に私の内にありました。しかし、それは2002年から翌年にかけて、神が召してくださるまでは実現しませんでした。はじめ8年間は東京のIBMで働きましたが、その間も心には日本で宣教に対し平安が与えられ、神のすばらしい働きを見ることができました。私は日本人を愛していますが、それは決して変わっていません。

その後私たちは日本から10年間離れて、米国に戻ることになりました。そしてアラバマ州ロナノークという小さな町にあるトリニティー・バプテスト教会で、私はお仕えし息子たちを育てました。今では三男が高校を卒業し、カレッジの2年生になろうとしています。そこで私たちは2年間の期間宣教で、来日する時が来たと確信しました。2年という短期宣教ですが、日本への宣教の熱意は何ら変化していません。東京では

Free Greater Team (短期伝道チーム) の一員で、その後東京北部地域宣教チームにも加わり、最後はチームリーダーとなりました。

・3人の息子たち

神は私たちに3人の息子を与えてくださいました。長男ハドソンは24歳、妻エリンは同じ町出身者です。私たちは彼女を愛しています。彼らは6月26日で結婚生活1年を迎えたところです。ハドソンは警察官ですので、「場合によっては逮捕されるかも知れないよ」、と教会執事に気をつけるように忠告したことがあります(笑い)。次男ヨセフは日本時代、我が家では日本語が一番上手でした。彼は22歳でフロリダ州ペンサコーラに住み、現在アンナ・ケーテと婚約中です。アンナは来年カレッジを卒業し、6月3日にヨセフと結婚する予定です。ヨセフは野球が大好きでコーチとしても指導しながら、現在不動産業の資格を得るために勉強中であります。三男カレブでももなく20歳となります。彼は今夏バプテスト教会のバイブル・キャンプで働いています。8月にカレッジの新学期が始まれば2年生となり、経済学の勉強に励むこととなります。

ここまでの私の短い証しで、これから礼拝説教に入りましょう。

2. 礼拝説教 聖日礼拝 2022年7月10日

主 題：「私たちの助けはそこから来るのか」

テキスト： 詩篇121篇1, 2節

121:1 私は山に向かって目を上げる。私の助けはどこから来るのか。

121:2 私の助けは【主】から来る。天地を造られたお方から。

はじめに

私の本日の説教テキストは詩篇121篇1, 2節です。この詩篇121篇は「都上りの歌」として知られています。上りとは山や丘の頂に向かい、歩き上ることを意味します。あなたが人生で失望を経験し落ち込んでいるならば、頂に向かい歩き上ることは勝利を意味します。

121:3 主はあなたの足をよろけさせずあなたを守る方はまどろむこともない。

121:4 見よイスラエルを守る方はまどろむこともなく眠ることもない。

これは「都上り」として賛美された詩歌です。しかし私がこれから賛美し始めるのではありませんから、どうぞ心配はしないでください（笑い）。多くの神学者たちは、この詩篇はダビデ自身が戦いの渦中にあったか、あるいは他の人が戦いの中にあっただかと考え、聖都エルサレムに上る有様を歌ったものと受け止めています。エルサレムは丘の頂にあり、詩篇121篇は疑いなくエルサレム巡礼を歌ったものです。これは今日の私たちへのメッセージでもあります。

2018年の夏、妻キムベリーと私は大きな交通事故に出会いました。それは相手の車との正面衝突でした。相手の運転手は麻薬を吸い反対車線に入り込み、正面から私の車に当たってきました。私たちは奇跡的に守られ、じつに多くの奇跡が起きました。もしそれを語りだすならば、時間はいくらあっても足りません。正面衝突の交通事故に遭遇したとき、一番はじめに口から出た言葉は神への叫び声でした。なぜなら、私たちの助けは主から来るからです。主からの助けによって、私たちはこの交通事故から回復することができました。

本 論

1. 私たちの助けはどこから来ないのですか？

助けを求めることに関して、聖書はいろいろなことを語っていますが、次に幾つかの聖句を挙げてみましょう。

8:19 人々があなたがたに「霊媒や、ささやき、うめく口寄せに尋ねよ」と言っても、民は自分の神に尋ねるべきではないのか。生きている者のために、死人に尋ねなければならぬのか。 イザヤ

8:20 ただ、みおしえと証しに尋ねなければならない。もし、このことばにしたがって語らないなら、その人に夜明けはない。 イザヤ

ヨハネの福音書

16:33 これらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を得るためです。世にあっては苦難があります。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝ちました。

主を求めなさい！ なぜなら私たちの助けは主から来るからです。

2. 私たちの助けは天地の造り主から来る

2011年、だれでも知っている地震、津波、原子力発電所のメルトダウン事件が東京から遠くない所で起こりました。この大災害が発生した時、私は日本語学学校で学んでいました。建物全体が大きく揺れ動いたその時、教師はただちに机の下に入るよう叫びました。私は教師の顔色を見て尋常でないことが起こったことが分かりました。そこで、先ず神に叫び声を上げました。なぜなら、私たちの助けは神から来るからです。

121:1 私は山に向かって目を上げる。私の助けはどこから来るのか。

121:2 私の助けは【主】から来る。天地を造られたお方から。

・創世記 1 章

1:1 はじめに神が天と地を創造された。

私の父は、ユーモアに富むジョークを語ることが得意な人でした。父は野球ファンでもありましたが、実は私も同じように野球ファンです。ある時、父はこう言いました。「神様は野球好きであることを知っているかい。そればかりか、聖書にそのように書いてある。」

創世記 1 章 1 節に “In the BIG INNING God…….”（はじめに神は……）とありますが、ここの BIG INNING（ビッグイニング）、つまりイニング（野球でいう 1 回、2 回のこと）と書かれているのではないかと。

神は天地の創造主です。詩篇 33 篇

33:6 【主】のことばによって天は造られた。天の万象もすべて御口の息吹によって。

33:7 主は海の水をせき止めて集め湧き出る水を倉に納められる。

33:8 全地よ【主】を恐れよ。すべて世界に住む者よ 主の御前におののけ。

主のおことばによって天地は造られました。そこに、私たちが助けを叫び求める理由があります。神は星をお造りくださり、その一つ一つに名前を付けておられます。

147:4 主は星の数を数えそのすべてに名をつけられる。

私たちが東京に住んでいたころ、夜空には市内のライトのために星は10個ほどしか見えませんでした。しかし町から出て山の方へ行くならば、多くの惑星が見えました。科学者は数十億個もの星があると語っています。そのような天地を造られた神に、私たちは助けを求め叫ぶことができるのです。

3. 私たちはイエス様に目を向けます

121:1 私は山に向かって目を上げる。私の助けはどこから来るのか。

121:2 私の助けは【主】から来る。天地を造られたお方から。

イエス・キリストは天地創造の時からおられたお方です。ヨハネの福音書

1:1 初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。

1:2 この方は、初めに神とともにおられた。

1:3 すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもなかった。

1:4 この方にはいのちがあった。このいのちは人の光であった。

1:5 光は闇の中に輝いている。闇はこれに打ち勝たなかった。

イエスは私たちの罪のために十字架におかかりくださいました。十字架は「カルバリー」と呼ばれた丘の上に立てられました。ですから、私たちは「カルバリー」（ゴルゴタ）の丘に目を向けるのです。そこから真の助けが来るからです。

私たちは「カルバリー」（頭蓋骨を意味する）の丘の上に立てられたイエスの十字架に、目を注ぎます。聖書は次の個所で記録しています。マルコ15：22，マタイ27：33，ヨハネ19：17

「ゴルゴタ」とは頭蓋骨の形をした丘で、聖都エルサレムにあります。英語表記の「カルバリー」はラテン語の Calvariae Locus から来たものです。私たちは「カルバリー」の丘で十字架にかかれたイエス・キリストを見上げ、目を注ぐものです。

イエス・キリストは私たちのすべての罪の支払い清算してくださり、新しい命を与えてくださったお方です。

ま と め

いかがでしょうか。 あなたは誰に助けを求めていますか？

天地の創造神であり、救いの希望を与えてくださったお方、神であるイエス・キリストに助けを求めるべきであります。

聖書は次のように語っています。使徒の働き 4章12節

4:12 この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人間に与えられていないからです。」